

教育センター「みらい」事業について

学校教育課 教育センター「みらい」

1 教育センター「みらい」の沿革

H29. 4. 1 大井川庁舎 1 F の学校教育課内に教育センター開設。

職員 2 人（主席指導主事 1 人、会計年度任用職員 1 人）配属

* 所長は、学校教育課長が兼任

R3. 9. 21 焼津市教育センターとして、大井川庁舎 2 F の一室に移設

R7. 3. 13 旧大井川商工業研修センターの大規模改修を行い、新たに「焼津市教育センターみらい」としてリニューアルオープン

2 現職員体制

○常勤職員 4 人

- ・ 所長 1（令和 3 年度より専属）
- ・ 主席指導主事 1
- ・ 指導主事 2（令和 3 年度より現体制）

○会計年度任用職員 10 人

- ・ 学習指導員 4（令和元年度より現体制）
- ・ 外国につながる児童生徒教育コーディネーター 2（令和 6 年度より現体制）
- ・ JETALT コーディネーター 2（令和 7 年度より任用）
- ・ JETALT 2（令和 7 年度より任用）

3 教育センター「みらい」事業の“4つの柱”

（1）教育大綱の理念浸透、授業改善の推進

- ・ 学校訪問や教員研修を通して、教育大綱の基本理念の浸透、授業改善の推進を行っている。

（2）子どもの豊かな学びの創造のために

①ステップアップ教室

- ・ 平成 29 年度から、小学生の基礎学力の向上を目的に、小学 3 年生を対象として、焼津南小学校で開始した。その後徐々に開催校を増やし、令和 4 年度より全小学校で年間 8 回ずつ、校舎の空き教室を基本会場として開催している。



小3

ステップをやる前より、算数が好きになった。算数がたくさんできて楽しかった。



保護者

個で教えていただいたことで、「わかった！」をたくさん実感できたようです。来年もやってほしいです。

②サマーステップアップ教室

- ・ 平成 30 年度から、夏休みの期間を利用して、中学生の基礎学力の向上および中 1 ギャップ解消等を目的に、中学 1 年生、小学 6 年生を対象として大井川中学校区で開始した。現在は、8 中学校区で、2 回ずつ、地域交流センターを基本会場として開催している。

- ・夏休み中の開催でもあるので、市の青少年ボランティア人材バンクを活用した中高生にも学習支援をお願いしている。中高生のキャリア形成の機会にもなっている。



小6

中、高生のみなさんが、解けない問題のヒントを教えてくれ、答えに導いてくれた。集中してできた。



中2 ボラ

人によって考え方や解き方が違うので、その子に合わせることを意識した。集中して問題を解いているので向き合いやすかった。楽しかった。



高1 ボラ

教員になりたいと思っている。サマーステップに限らず、他のイベントにも積極的にボランティア活動に参加していきたい。

③外国語指導支援

- ・小学校3年～6年の外国語活動、外国語科の授業全時間にALTを派遣
- ・中学校の外国語科に4月より3人派遣。3年間かけJETALTの任用を増員

(3) 外国につながる児童生徒支援のために（後述）

- ①外国につながる児童生徒支援員の派遣
- ②外国につながる児童生徒の受け入れ
- ③プレ教室（みらい教室）
- ④プレスクール

(4) 子どもにとって魅力ある教師を育成するために

- ①市教委訪問や市指定学習指導研究発表会
- ②教師力育成
 - ・県の初任者研修対象にならない若手教員38人対象にセンター職員が訪問、指導（講師23人に年間5時間、2年目研修7人と3年目研修8人に年間3時間）
- ③みらいの先生育成「みらいアカデミー」
 - ・令和3年度より開始し、県の教員採用試験日に合わせ、1期20回の実施日も変更してきている。
 - ・今期は8月29日に開講式を行う。今年度より、会場を市役所本庁、時間を1時間30分とした。
 - ・第1期と第3期の受講生の現況をみると、講師の確保につながっている様子が見える。

＜みらいアカデミー受講者の現況＞

期	受講人数	現況
第1期 (R3.10～R4.8)	20人	正式採用9人 講師として焼津市に配属6人
第3期 (R5.10～R6.6)	15人	正式採用4人 講師として焼津市に配属8人
第5期 (R7.8～R8.6)	現在19人	教職大学院1人 大学13人 講師4人 支援員1人



受講生

自分一人の勉強では得られない多くの学びを得ることができた。私の視野が広がったと思う。



受講生

勉強する場だと思って参加したが、先輩の実践や講話は、子供や保護者への接し方で、実際に活かせることが多く、自分自身のためになった

④教職員自主研修

- ・書籍棚に、教育関連の書籍、採用教科書と採用されていない教科書等を整備

⑤教員研修

- ・校長園長会、教頭研修会、分掌会議等、数多くの研修会を実施

4 外国につながる児童生徒の支援について

(1) 数値による実態

○外国につながる児童生徒の増加、多国籍化が進んでいる。

- ・R7年度で、フィリピンが全体の52.5%で、割合としても増える傾向にある。
ベトナムなどの周辺のアジア諸国も増えつつあり、多国籍化が進んでいる。
- ・外国につながる児童生徒の増加に伴い、日本語指導が必要な児童生徒数は、コロナ禍の時期を除き、毎年、30人前後増加し続けている。

＜外国につながる児童生徒 国別人数の比較＞

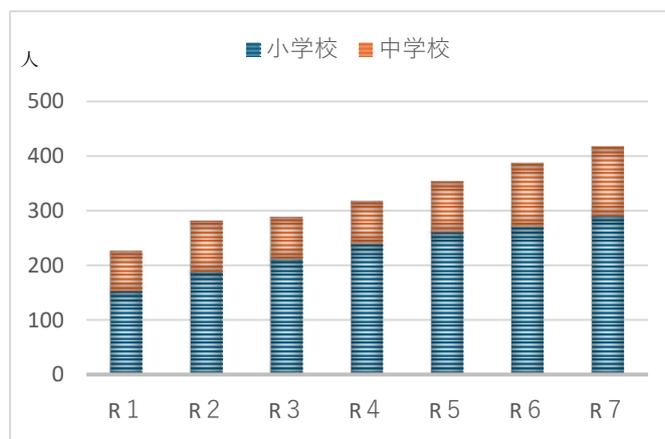
(単位：人)

年度\国	フィリピン	ブラジル	日本	中国	ベトナム	ペルー	インドネシア	スペイン	ネパール	スラバカ	パキスタン	ミャンマー	フランス	コロンビア	アルゼンチン	モソゴル	計
R6	219	89	75	14	13	15	9	3	1	4	2	0	0	0	1	5	450
R7	254	85	74	17	22	13	6	3	3	2	1	1	1	1	1	0	484

＜小中別の日本語指導が必要な児童生徒数と前年比表＞

年度\種	小学校(人)	中学校(人)	合計(人)	前年比(人)
R1	153	74	227	
R2	188	94	282	+55
R3	212	77	289	+7
R4	239	79	318	+29
R5	261	93	354	+36
R6	270	118	388	+34
R7	290	128	418	+30

＜小中合わせた日本語指導が必要な児童生徒数グラフ＞



(表、グラフとも各年度5月1日調べによる数値)

(2) 近年、続いている外国につながる子どもたちの傾向

○子どもの母語定着不足の心配

- ・母語の定着が不十分であり、母語指導や初期の日本語指導に多くの時間を必要とする児童生徒が増えている。

特に低学年には母語の読み書きができない児童もおり、「自分が小さかったころ、親が何を話しているのかわからなくて困った。」という経験談もある。

- ・入国してくる子どもが低年齢化し、日本で生まれる外国につながる子どもたちも増えている。
大井川南幼稚園では、全園児数35人のうち20人が外国につながる子どもたち(フィリピン16人、ベトナム2人、アメリカ、ブラジル各1人)であり、他園でも増加の傾向がみられる。

(3) 昨年度の成果

○子ども・保護者・学校の三者が不安を解消して、学校へ編入している。

- ・令和6年度よりコーディネーターが増員され、2人となり、一人の入国者に対し、複数回の就学ガイダンスを実施した。

保護者に、日本のこと、学校のことを十分に伝えたり、児童生徒の様子について聞いたりする時間を作ることができた。

- ・子どもたちに、みらい教室で母語指導、日本語の初期指導を行うにあたり、フィリピンのバイリンガル支援員が増えた時期は、ほぼ毎日、みらい教室が実施できた。

みらい教室に通うことで、子供たちは不安を解消し、また、生活リズムも整えられたため、学校編入後も、子どもたち自身がスムーズに学校対応ができていたように感じる。

<教育センターで就学ガイダンスを実施した子供の人数>

(単位：人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
フィリピン	1	9			6	4	5	6		1	1		33
ベトナム			1	1									2
中国		1					1						2
モンゴル	1												1
カナダ							1						1
ネパール									1	1			2
人数	2	10	1	1	6	4	7	6	1	3	1	0	41

(4) 今後に向けて

○子どもの母語定着不足への保護者、子どもへの対応が急務

- ・乳幼児からの切れ目のない支援を行うため、部局を超えた連携を進める。

試行として、大井川南幼稚園にコーディネーターを派遣し、保護者、職員に母語の重要性について伝えたり、日常の子供への支援の方法についてスキルアップを図ったりする(教育センター業務を優先)。検証結果によっては、コーディネーターの増員が必要になることも考えられる。

- ・バイリンガル支援員の確保と育成に努める必要がある。

学校が夏休みの7、8月も、外国につながる子供たちの学校への編入がスムーズに進むようみらい教室を実施してきている(以下の表の通り、夏休み中は学校での支援がないため、通常期より充実した実施が可能)。ただ、みらい教室は、子どもへの指導があるため、バイリンガルであればよいということではないので、バイリンガル支援員の育成という視点ももちながら確保していく。

<7、8月の「みらい教室」参加人数>

(単位：人)

国	日	7/22	23	24	25	28	29	30	31	8/1	4	5	6	7	8	夏休み	18	19	20	21	22
フィリピン		3	3	2	3	2	3	1	1	2	3	2	2	3	3	○	○	○	○	○	
ブラジル		2	0	1	1	/	0	0	/	/	/	1	1	2	/	/	/	○	○	○	

- ・他市の母語指導について情報をつかみ、視察を積極的に行う。

○母語の重要性について参考資料

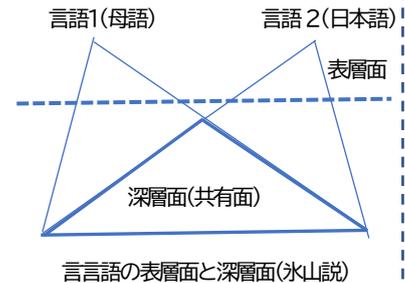
- ・以下の資料の通り、母語習得の重要性について保護者へ啓発活動を行っていく。

①中教審答申（R3.1.26）第Ⅱ部 各論 5 増加する外国人児童生徒への教育の在り方について

- ・キャリア教育や相談支援などを包括的に提供することや、子供たちのアイデンティティの確立を支え、自己肯定感を育むとともに、家族関係の形成に資するよう、これまで以上に母語、母文化の学びに対する支援に取り組むことも必要である。

②ジムカミンス（1949年-）の「言語相互依存説」

- ・母語と第二言語を氷山にたとえ、根底にある共有する能力の存在を強調している。母語と第二言語は表面上全く違うもののように見えても、深層部分で共通する言語能力の領域を持っており、二つの言語に共通する言語能力はどちらか一方の言語によって高めることができることを示している。



----- **参考資料** <入国してきた児童生徒の支援体制（教育センター）> -----

【来日】
↓
【住所確定】（本庁市民課、大井川市民サービスセンター）
↓

<かかわる人員>
○コーディネーター 2人
○担当指導主事 1人（他業務と兼務）
○支援員 37人
日本語教師 19人 JSL学習支援員 2人
バイリンガル支援員 16人

【就学希望の聞き取り】（担当指導主事、コーディネーター）
↓

- ・市内公立小中学校
- ・その他（外国人のための学校、ふじのくに中央日本語学校インターネットスクールなど）

【就学のためのガイダンス】（★1）（担当指導主事、コーディネーター） 3回程度/人

- ・生育歴や学習履歴、家族状況等の確認
- ・就学や進学に関する希望、将来への見通し等の聞き取り
- ・日本の小中学校についての説明し、必要に応じて学校見学
- ・保護者としての役割や心構え等を保護者に伝えたり、心配事等の相談にのったりする。

小中学校への連絡調整

- ・聞き取り内容報告
- ・編入手続き同行

*子どもはこの期間を利用して『みらい教室(プレ教室)』（★2）に参加し、母語指導、日本語の初期指導を受ける。（R7年度は、フィリピン月木、ブラジル月金）

【日本語指導・学習支援】（支援員：実際の支援、コーディネーター：割り振りと支援員指導）

市内小中学校に在籍後の指導

【①初期適応】

- 毎日4時間程度、3日～5日程度
- ・在籍学級に入り込みで行う母語での支援

【②初期指導】

- 毎日1～2時間、4か月程度（R7 47人対象）
- ・在籍学校の指導教室等を確認
- ・生活に必要な日本語や日本の生活、文化について
- ・基本的には1対1での指導、状況に応じてグループ指導

【③継続指導】

- 2週間に1時間程度、支援を継続（R7 351人対象）
- ・継続的な日本語指導
- ・教科学習に繋がる日本語指導等

支援員研修会

- ・研修会を年間6回開催予定。

母語での支援

- ・面談通訳、翻訳、相談等

進路ガイダンス（協働推進課主催）

日本の教育制度や進路の現状、母語の重要性等について話すので、学校を通して、参加を呼び掛ける。

【安定・継続した就学 ➡ 卒業（進学・就職）】